

スリランカ

ワラウェ川左岸灌漑改修拡張事業(1)(2)
インパクト評価

調査期間：2009年3月～7月

評価の概要

本評価は、灌漑改修事業が社会開発にもたらす効果について分析を行うものである。具体的には、「灌漑関連事業により水利組合組成等を通じて地域のソーシャル・キャピタル*が蓄積される」という従来からの仮説を定量的なインパクト評

価により検証することをめざしている。評価結果からインフラ事業の持続性に向けた有益な教訓が導き出され、同様の協力の効果的な実施に活かすことが期待される。

評価の背景・目的

旧JBICは2001年から評価対象事業地域において継続的に家計調査によるデータ収集を行い、インパクト評価を実施してきた。この調査からは、灌漑整備が貧困削減に寄与していることが明らかとなっている。本評価ではこれらの調査結果・データをふまえ、灌漑整備事業の社会開発に対するインパクトについてさらに詳細な分析を実施することを目的としている。

社会開発の側面では、円滑な水利組合の運営、取引コストの

軽減といった観点から、農民間のソーシャル・キャピタル蓄積への貢献が重要であり、灌漑インフラの持続性に影響する。しかしながら、これまでに灌漑インフラ整備が農民間のソーシャル・キャピタル蓄積の促進要因となり得るかを精緻に検証したインパクト評価はない。

本評価においては、ソーシャル・キャピタルの正確な測定を行い、もって灌漑建設がソーシャル・キャピタル蓄積に与えた効果を検証していく。

評価の手法・初期分析の暫定結果

これまでソーシャル・キャピタルの測定のために一般的に行われてきた質問票を用いた主観データなどは、測定誤差が大きいことから正確性を疑問視する指摘が多い。本評価では、まずソーシャル・キャピタルの正確な把握を行うために、近年進展の著しい実験経済学の諸手法を用いて、指標を直接的に観察・収集した。具体的には、人々の信頼、協調性を計測する実験を行うことで、ソーシャル・キャピタルにかかるデータ収集を行った。また、これまでに継続して行ってきた調査で対象としてきた家計を今回の評価対象にも含めることで、長期にわたる詳細なパネルデータの利用を可能としている。

これらのデータをもとに初期分析を行った結果、灌漑建設とソーシャル・キャピタルの水準に正の相関が認められている。つまり灌漑へのアクセス年数が長いほどソーシャル・キャピタル蓄積が進んでいることが示唆される。今後は分析手法を精緻化し、灌漑建設とソーシャル・キャピタル蓄積の因果

関係にまで踏み込んだ詳細な分析を行っていく方針である。



本事業によって一大生産地となったバナナのマーケット

* ソーシャル・キャピタルの概念は多様であり、統一的な定義は存在しないが、信頼、互恵性の規範、価値観、社会ネットワーク、市民参加などを含む。JICAや世界銀行の報告書等では「当該社会・集団内もしくは社会・集団間において、開発目標の達成に向けて必要な何らかの協調行動を起こすことに影響を与える社会的な諸要因」、「人々と彼らの属する組織・制度との相互作用を規定する社会・文化的結合、規範、および価値」といった定義が過去に提示されている。